



Newsletter No. 15

歴史都市を守る 「文化遺産防災学」推進拠点

立命館大学 グローバル COE プログラム

目次

- 減災の知恵の利用 1
吉越 昭久
- 中国清華大学・都市設計研究院との共同研究を開始！ 2
- 歴史都市防災シンポジウム'10を開催しました 3
- 第2回文化遺産防災アイデアコンペティションを実施しました ... 4

2010年9月号

■ 研究トピック ■

減災の知恵の利用

吉越 昭久（立命館大学 文学部人文学科 教授）

歴史災害にアプローチしていくと、その地域に特有な減災にかかわる知恵や施設が存在が浮かび上がってくる。減災の知恵のほとんどは、現代の技術で再現が可能なものである。近年では、高度な技術を用いた大規模な減災施設が建設されている。しかし、それらを稼働させるためには多額の費用と大きなエネルギーを必要とする。ところが、このような近代的で大規模なハイテク減災施設は、地震に伴ってライフラインが切断されると使用できなくなることもある。これに対して、歴史災害から抽出された減災の知恵はローテクとはいえ、施設の構造が単純で規模が小さく電気などのエネルギーを必要としないことから、災害時でも稼働する可能性が高い。たとえ被害を受けても現場で容易に修復が可能である。減災に関する近代的な施設や体制の中に、歴史災害から抽出された減災の知恵をうまく取り込み活用することができないであろうか。

そこで、減災の知恵を抽出する方法を右の図に沿って検討してみよう。まず、歴史災害の復原研究などから、考え得る全ての減災の知恵をリストアップする。減災の知恵のそれぞれについて、名称・起源・特徴・機能・実効性・存在の有無・分布・既往研究のリストや写真・分布図などをカルテに記載する。その上で、使える知恵、使えない知恵に篩い分けし、最終的に使える知恵について定量評価を行い、可能性のあるものを計画や事業に取り込んでいく。これが最終的な目標である。減災の知恵を計画・事業に導入する際には、その概要を地元の行政や住民に説明し、了解

を得なければならない。それは、減災施設や体制に安心感をもってもらうことと、災害時に修理が必要となった場合に地元の人々に協力をもらうためでもある。以上のようなプロセスを経て、減災の知恵はようやく活用されることになるのである。

うだつを例にして、最終的なイメージをつかんでみたい。うだつの実効性はまだ確認できていないため明確なことはいえないが、ボヤ程度の火災に効果があるにしても、大火には効果はないと考えられる。従って、うだつだけを減災の知恵として実際の計画や事業に加えることには無理があろう。うだつを実際の計画や事業に取り込むとするならば、白壁・土蔵・用水など他の知恵とセットにして町並み保全事業にすれば実現の可能性は高いかも知れない。減災だけを目的にするのではなく、観光開発などの要素を含むならば地元の理解は得やすくなり、事業の実現性は高くなるに違いない。

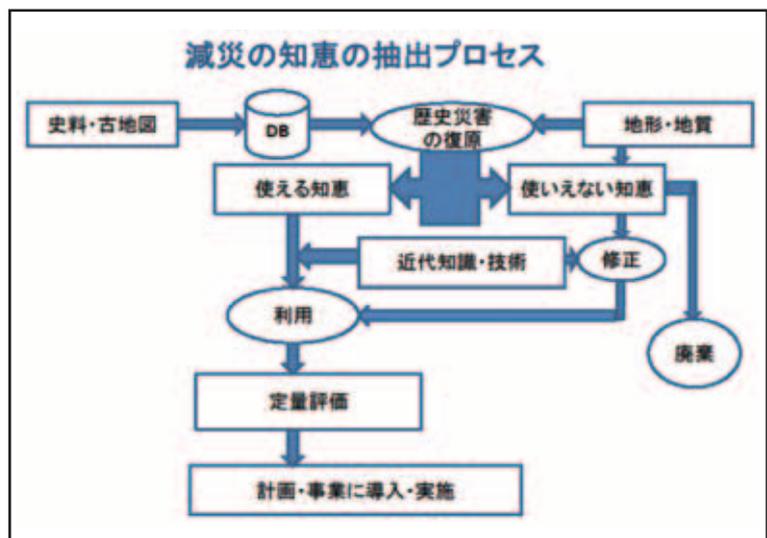


図1 減災の知恵の抽出プロセス

中国清華大学・都市設計研究院との共同研究を開始！

2008年5月12日、マグニチュード8.0の地震が発生し、中国・四川省に甚大な被害が発生しました。特に、“都江堰市”は2000年世界文化遺産に登録された2300年前の利水施設と寺院さらに歴史的市街地などに壊滅的な被害が生じ、年間800万人の観光客数が450万人に激減し、この影響による経済損失額は1500億円と見積もられています。

このような文化遺産を核とした観光都市の防災を推進するため、2009年度より清華大学都市設計研究院との共同研究について協議してきました。その結果、双方の合意のもとに、東アジア木造文化圏を対象とした文化遺産の危機管理（防災や保存など）に関する研究交流を推進するための覚え書（MoU）を締結しました。清華大学都市設計研究院においては、公共安全研究所、文化遺産保存研究所そして歴史文化都市研究センターの3機関が参加することとなりました。

明知大学校（韓国、2008年にMoUを締結）、清華大学都市設計研究院（中国）そして本学による“日中韓による文化遺産防災の研究体制”が整いました。今後、これまでの研究成果を活用し、「仏教の伝来が残した文化遺産の保護と防災」に関する3ヶ国共同研究を開始していきます。



写真1 都江堰における祠堂「二王廟」の被害写真

歴史都市防災シンポジウム'10を開催しました

2010年7月3日（土）に立命館大学衣笠キャンパスにおいて、歴史都市防災シンポジウム'10を開催しました。歴史都市や文化遺産の防災に関する45件の研究発表と活発な討議がおこなわれました。全国から200名以上の参加があり、歴史都市防災に関する関心の高さがうかがえました。来年度（2011年度）も7月頃にシンポジウムを開催する予定です。

なお、シンポジウムで発表された研究成果については「歴史都市防災論文集 Vol.4」として刊行しております。ご希望の方にはお送りいたしますので、事務局までお問い合わせください。



写真2 シンポジウムの様子-1



写真3 シンポジウムの様子-2

第2回文化遺産防災アイデアコンペティションを実施しました

2010年7月3日（土）に立命館大学衣笠キャンパスにおいて、第2回文化遺産防災アイデアコンペティションの第2次審査会と表彰式が実施されました。全国から43作品の応募をいただき、その中から選抜された7作品に対して公開講評会が行われ、その後の審査員による協議を経て、特別賞を含む計10作品に対して表彰が行われました。審査結果についての詳細は、コンペのホームページ（<http://www.bunkaisan-competition.jp/>）をご覧ください。応募者の皆様および会場にご参加いただきました皆様のご協力に感謝を申し上げます。



写真4 プレゼンテーションの様子



写真5 最優秀作品「Historic Gate」（作者代表：立命館大学 高橋 智彦さん）

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点
Newsletter No.15
(2010年9月号)

発行

立命館大学 G-COE 文化遺産防災学推進拠点

びわこ・くさつキャンパス事務局 (本部) :
立命館大学 防災 SRC 事務室
〒525-8577
滋賀県草津市野路東 1-1-1
TEL: 077-561-5083
FAX: 077-561-3418
Email: heritage@st.ritsumeai.ac.jp

衣笠事務局 :
立命館大学歴史都市防災研究センター
〒603-8341
京都市北区小松原北町 58
TEL: 075-467-8801
FAX: 075-467-8825
Email: rekibou@st.ritsumeai.ac.jp

